

就任にあたって



消防庁長官 横田 真二

7月20日付けで消防庁長官に就任しました横田真二です。よろしくお願いいたします。

思い返してみますと、これで消防庁に勤務するのは5回目となります。

最初に勤務したのは救急救助課の課長補佐としての勤務であり、そのときには阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件がありました。2回目は防災課長から消防・救急課長、総務課長を務めさせていただいた平成22年からの4年3ヶ月の期間であり、このときには東日本大震災がありました。そして3回目は平成27年から平成28年にかけての国民保護・防災部長の時であり、このときには、熊本地震がありました。そして2年前、平成30年から令和元年にかけて消防庁次長として勤務したときにも北海道胆振東部地震などがありました。

毎年のように台風、豪雨などの風水害が発生している昨今、思い返してみると、消防庁での勤務が長くなったのだなと感慨深いものがあります。

消防庁勤務以外でも、総務省全体の危機管理を担当する官房総務課長、官房長、そして内閣官房の危機管理担当の審議官などを経験してきましたので、結果的に危機管理関係の仕事が長くなってしまいました。今年も7月には令和2年7月豪雨があり、多くの方が犠牲になられました。お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を捧げるとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

このような災害時において、全国の消防職団員の方々は、昼夜を分かたず、人命救助など人々の生命、身体、財産の安全のために多大なご活躍をしていただきました。活動された皆様に心より敬意を表するとともに、感謝を申し上げます。

今後を考えてみますと、南海トラフ地震や首都直下地震等への対応、激甚化する風水害への対応、大規模イベントなどをターゲットとするテロへの対応など、消防を取り巻く諸課題は山積しています。このような中で、私たち、総務省消防庁としての務めは、崇高な使命のもと現場で活動される消防職団員の方々が、さらに安全に、さらに活動しやすい環境を整えるべく、いかに取り組んでいくかということだと思っています。

そのためには、私をはじめ、消防庁の職員が、消防職団員の皆様が、いま、何を望んでおられるのか、何を必要とされておられるのかを考え、そのことについて皆様からよくご意見を伺いながら、その課題の解決に最大限取り組んでいくことが必要だと考えています。中には困難な課題もあるかもしれませんが、数々の先輩たちが築きあげてこられたこれまでの成果を継承しながら、少しずつでも発展させていくことが大切だと考えています。

そんなことに思いをいたしながら、我が国の消防が今後とも発展していくように、微力ではありますが取り組んでまいりますので、皆様のご協力とご理解をよろしくお願い申し上げます。